

Table of Contents

1. オペレーション	Page 4
1.1 PRESET (プリセット)	4
1.2 プリセットのナビゲーション	5 - 6
1.3 アルゴリズムのナビゲート	5
1.4 マスターボリューム	5
1.5 パラメーター (1stと2nd)	5
1.6 Globals (グローバル)	6
1.7 X-Y スワップ (順序の入れ替え)	6
1.8 DSP ルーティング	7
1.9 PRESET (プリセット) モード vs STOMPBOX (ストンプボックス) モード	7 - 8
1.10 パラメーターのランピング	9
2. 外部コントローラー	Page 10
2.1 外部スイッチ	10
2.2 コントロール・ボルテージ (CV)	10
2.3 エクスプレッション・ペダル	11
3. TAP TEMPO (タップテンポ)	Page 12
3.1 タップ分割 (Division)	12
3.2 テンポLED	12
4. SETUPS : Stereo Out (ステレオ出力) と Pre/Post設定	Page 13 - 14
5. プリセット・タイトルのエディット	Page 15
6. SYMMLABエディター・ソフトウェア	Page 16 - 17
7. ファクトリー・リセット、ファームウェア、ライブラリーのアップデート	Page 18 - 19



各エンコーダーは、スイッチとしても使用します。



各スイッチ&ノブの、主な動作です。詳細は、各チャプターを参照ください。



- 回す - 1stパラメーターの調整
- 押す - ランピングのスピード調整
- 長押し - エクスプレッションのマップ/アンマップ
- 押し回す - 2ndパラメーターの調整

- 回す - アルゴリズムの選択
- 押す - 選択したアルゴリズムの on / off
- 長押し X - Optionsメニューを開く
Y - Globalsメニューを開く
- 押し回す X - プリセット・バンクの選択
- 押し回す Y - マスターボリューム調整

Preset モード時

- 押す B/X - パッチ Bを選択 / バイパス
A/Y - パッチ Aを選択 / バイパス
- 長押し B/X > 500 ms - DSP-Xのランピング開始
A/Y > 500 ms - DSP-Yのランピング開始
- A & B 同時長押し - 次のBank番号に移動
- A & B 同時長押し - Stompbox モードに切替え

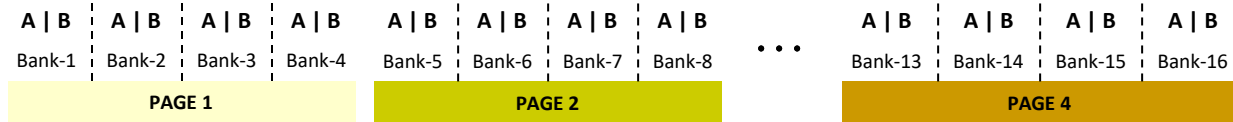
Stompbox モード時

- 押す B/X - DSP-X の on / off.
A/Y - DSP-Y の on / off.
- 長押し B/X > 500 ms - DSP-Xのランピング開始
A/Y > 500 ms - DSP-Yのランピング開始
- Push A & B together - 次のBank番号に移動
- Hold A & B together - Presetモードに切替え

Chapter 1 - オペレーション

1.1 PRESET (プリセット)

SYNESTHESIA には、4つのページ (PAGE 1 ~ PAGE 4) があります。各ページには4つのBankがあり、各Bankには2つのパッチ (A / B) があります。つまり、合計32のプリセットが保存できます。



使用する最大Bank数 / PAGE数が設定できます。例えば、16プリセット (4 Bank x 2 パッチ) に制限することで、使用するページ数を2つに抑える事も可能です。

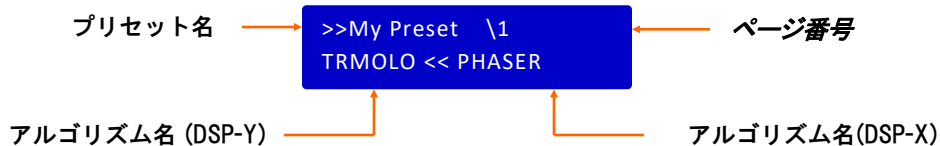
MIDIコントローラーを使用していない場合など、ページ数を減らすことで呼び出したいプリセットに辿り着きやすくなります。

Pageの設定は、Global Settings (グローバル・セッティング)

1.2 プリセットのナビゲーション

■ プリセットを呼び出す

- フットスイッチ A/Y を押すと Patch Aを呼び出します。Patch Bの場合はフットスイッチ B/Xを押します。



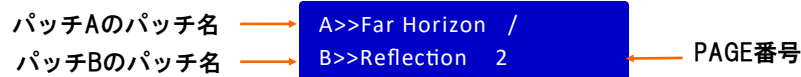
■ 異なるBankに保存されたプリセットを呼び出す。

1. 使用したいプリセットが保存されているBankを選択。
2. フットスイッチ A/Yを押して、Patch Aを呼び出す。(Patch Bの場合はフットスイッチ B/X)

バンク間を移動する方法：

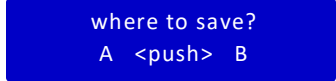
- 方法1：フットスイッチ A/Yと、フットスイッチ B/Xを同時押し。(長押しはしない)
- 方法2：Xエンコーダーを押回す。

Bank間をスクロールすると、画面にパッチAとBのパッチ名と、PAGE番号が表示されます。



■ プリセットの保存

- 図のような画面が表示されるまで、X と Y のエンコーダーを長押し。



< キャンセル方法： X と Y エンコーダーを再度長押し >

- パッチAに保存する場合はフットスイッチA、パッチBに保存する場合はフットスイッチBを押します。

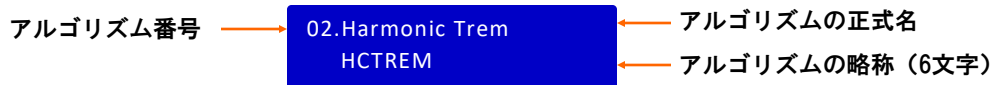
プリセット保存後、(Options → Title Editor)でタイトルを変更できます。

■ エフェクトをバイパスする

- 使用中のプリセット (AまたはB) のフットスイッチを踏み、LEDが消灯するとバイパス状態になります。

1.3 アルゴリズムのナビゲート

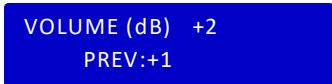
X エンコーダーでDSP-X、Y エンコーダーでDSP-Yのアルゴリズムを選択。
 X エンコーダーを押すとDSP-Xのアルゴリズムを on / off します。(Y エンコーダーを押すとDSP-Yのアルゴリズム)



アルゴリズムの詳細は、別紙 ([Synesthesia Algorithms.pdf](#)) に掲載されています。

1.4 マスターボリューム

各プリセットの出力ボリュームを、-3dB ~ +3dBの範囲内で設定できます。



Y エンコーダーを回して音量を調整します。

マスターボリュームは、プリセット毎に設定可能。

1.5 パラメーター (1stと2nd)

各アルゴリズムには、最大6つのパラメーターがあります。SPEED、DEPTH、TWEAK (1stパラメーター) は各エンコーダーを回して調整します。SPEED、DEPTH、TWEAK (2ndパラメーター) は、各エンコーダーを押し回して調整します。

ランピング、またはエクスプレッションペダルでコントロールできるのは、1stパラメーターのみです。

1.6 グローバル & オプション

■ Globals (グローバル)

グローバル・セッティングは、全セッティングに適用される設定です。

- 「GLOBAL SETTINGS」と用事されるまで、Y エンコーダーを押し回します。
- Yエンコーダーを回して、設定したいGlobalパラメーターを選択します。
 < キャンセルする場合は、Yエンコーダーを長押しします >

Globals: - Preset Pages. - Aux TIP.
 - Input Pad. - Aux RING.
 - MIDI Channel. - Aux TIP + RING.
 - Footswitch B/X alt. function. - Favorite Preset
 - Tempo LED.

■ Options (オプション)

オプションは、プリセット毎の設定です。

- Optionsのメニューに入るまで、Xエンコーダー長押しします。
- Xエンコーダーを回して、設定したいOptionsパラメーターを選択します。
 < キャンセルする場合は、Xエンコーダーを長押しします >

Options: - Pre / Post Configuration. - Default Mode.
 - DSP Routing. - Preset Title Editor.
 - Tap Division for DSP-X. - Unmap Expression Pedal (on current preset).
 - Tap Division for DSP-Y. - Unmap Expression Pedal (on all presets).

1.7 X-Y スワップ (順序の入れ替え)

この機能を使用すると、XとYで使用中の2つのアルゴリズムの、順序を入れ替える事ができます。

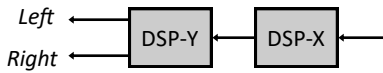


両アルゴリズムとパラメーターが、入れ替わります。

1.8 DSP ルーティング

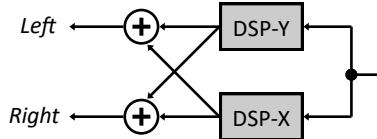
SynesthesiaのデュアルDSPエンジンには、3つのルーティング方法があります。

CASCADE (カスケード)



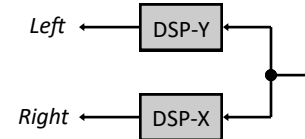
>>My Preset \1
TRMOLO << UNIVBE

MIXTURE (ミクスチャー)



>>My Preset \1
TRMOLO ++ UNIVBE

SPLIT (スプリット)



>>My Preset \1
TRMOLO || UNIVBE

上記のような接続バリエーションが、想像の限界を超えたサウンド製作を可能にしてくれます。

Note:

通常、DSPの出力は、wet (プロセスされた信号) + dry (プロセスされていない信号) の両方を有しています。ただし、ミクスチャー接続時は、出力がwet (X) + wet (Y) + 2*dryになります。そのため、XとYで使用するアルゴリズムによってはwetとdry間のバランスが崩れる場合があります。ほぼ全てのアルゴリズムにはwetとdry間のバランスを調整するコントロールが備わっていますので、それを使用して崩れたバランスを補正してください。



DSPルーティングはOptions (Options → DSP Routing) で設定します。これはプリセット毎に設定可能です。



Split はステレオ時のみ有効です。モノラル時にはその効果を発揮しません

1.9 PRESET (プリセット) モード vs STOMPBOX (ストンプボックス) モード

Synesthesiaには、PRESET (プリセット) とプリセットとSTOMPBOX (ストンプボックス) の2つのモードがあります。これらは、必要に応じて簡単に切り替えることができます。

■ PRESET (プリセット) モード

保存されたプリセットを呼び出して使用するモードです。フットスイッチ A/Y がパッチAを呼び出し、フットスイッチ B/X がパッチBを呼び出します。設定が異なるサウンド間を瞬時に切り替えるのに便利なモードです。




このモードでは、フットスイッチ A/Y および B/XのLEDがオレンジに点灯します。

STOMPBOX (ストンプボックス) モード

このモードでは、本機を2台のエフェクターのように使用できます。各フットスイッチは、それぞれ X と Y にロードされたアルゴリズムの on/off として働きます。

また、このモードでは各スイッチをモメンタリー・モードで使用できます。そのため、エフェクトをかけたい間だけフットスイッチを押せばなしにする…と言う使い方も出来ます。

 このモードでは、フットスイッチ A/Y および B/X の LED が赤に点灯します。

PRESETモードとSTOMPBOXモードの切り替え：

3回点滅するまで、両フットスイッチを同時に長押し。<一時的にactiveモードが表示されます >

- Stompbox モード -



1回タップする

-> バイパス / DSP-Y を on にする

バイパス時 500 ms 以上長押し

-> 押している間だけ DSP-Y を on にする

エフェクター on 時 500 ms 以上長押し

-> DSP-Y のランピングを on にする

1回タップする

-> バイパス / DSP-X を on にする

バイパス時 500 ms 以上長押し

-> 押している間だけ DSP-X を on にする

エフェクター on 時 500 ms 以上長押し

-> DSP-X のランピングを on にする。

オート Stompbox モード (firmware v.2.0.0 以上)

Firmware v2.0.0 から、プリセットを呼び出すと、自動的に Stompbox モードに切り替わるモードを追加しました。この機能は、プリセット毎に設定できます。

ペダルでの選択：

Options

5. Default Mode

> Dfault: Preset

> Dfault: Stmpbox

BANK-PATCH	PRESET TITLES (12 char max)	AUTO STOMPBOX MODE
PAGE - 1		
1 - A	Far Horizons	<input checked="" type="checkbox"/> S
B	Octolean	<input type="checkbox"/> S
2 - A	Perfect Peak	<input type="checkbox"/> S
B	Perfect Peak	<input type="checkbox"/> S
3 - A	Shiverhowls	<input type="checkbox"/> S
B	Reflections	<input type="checkbox"/> S

SymmLab エディタでの選択：

各プリセットの右にあるボタンをチェックすると、オート Stompbox モードがそのプリセットのデフォルト・モードになります。

全てのプリセットをオート Stompbox モードで使いたい場合は、全てのプリセットのボタンにチェックを入れてください。

1.10 パラメーターのランピング

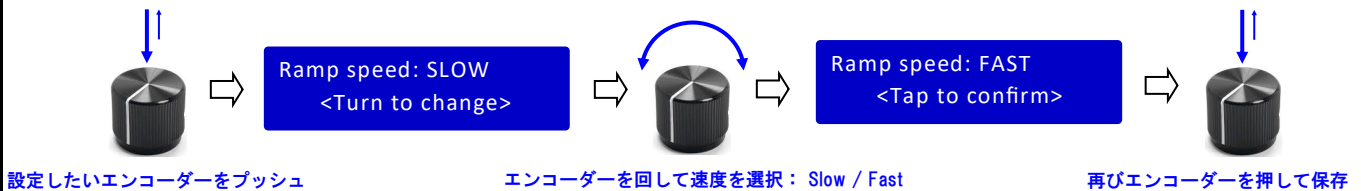
ランピング機能では、3つのパラメーターを同時にランプアップ（コントロールの設定値を上げる）事が可能です。

- ・ A/Yフットスイッチを、約0.5秒長押しします。
 <フットスイッチを押している間、選択されたDSP-Yのパラメーターが設定した最大値まで一気に上昇します>

- ☞ DSP-Xでも、B/Xフットスイッチを押すことで同様のパラメーター・ランピングが行えます。
- ☞ ランピング機能を使うためには、マッピング設定を行う必要があります。（**CHAPTER-2.3参照**）ランピングの最大値も、マッピングと併せて設定できます。
- ☞ 外部スイッチやMIDI経由でランピング機能をオンにした場合には、スイッチを長押しせず瞬時に効果を適用できます。

■ ランピングのスピード

ランピングのスピードは、コントロール毎に設定できます：



- ☞ 変更せずメインスクリーンに戻るには、他のノブを回すか押すかしてください。

ロータリースピーカーのアルゴリズム用特別設定

HORNとDRUMのアルゴリズムを除く全てのアルゴリズムでランピング機能が使用できます。
 HORNとDRUMは、ロータリーのスピード（slow / fast）のみ切り替え可能です。

フットスイッチを0.5秒長押しするとロータリーのスピードが切り替わり、ディスプレイに以下のように表示されます。
 この表示が現れたら、フットスイッチを放します。

ROTOR SPEED
 slow <—> fast

- ☞ ロータリーのスピードは、外部スイッチやMIDIでも切り替え可能。

Chapter 2 - 外部コントローラー

Synesthesiaは、外部からのコントロールにも幅広く対応しています。ACE入力端子に、次の3つのタイプの外部コントローラーが接続が可能です。


- 1~3スイッチのAuxコントローラー（フットスイッチ等）
- ボルテージ・コントローラー
- エクスプレッション・ペダル

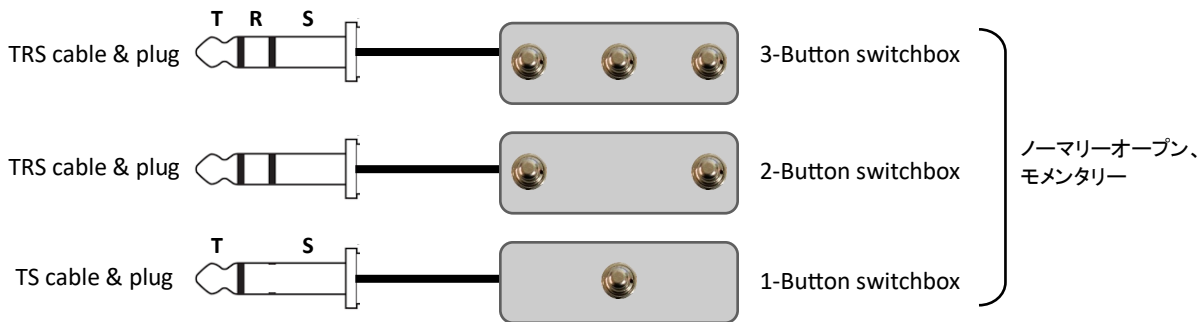
Synesthesiaは、電源投入時に外部コントローラーを自動で認識します。その情報は次回の電源投入まで保持されるので、外部コントローラーを変更する際は、再起動（電源のoff~on）を行ってください。

2.1 外部スイッチ

外部スイッチを使用する事で、操作の範囲は大きく広がります。以下が、外部スイッチで操作可能なファンクションです。

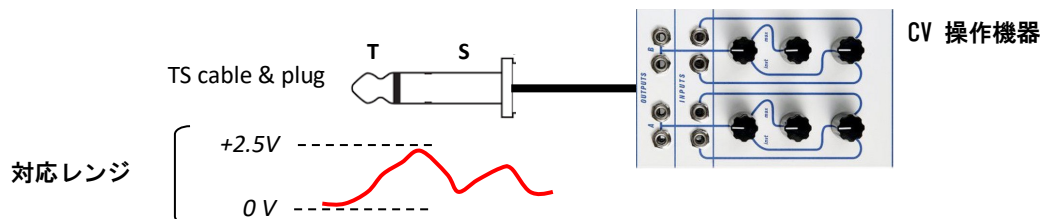
- Bank Up
 - Bank Down
 - Page Up
 - Load Patch-A
 - Load Patch-B
 - Tap Tempo
 - Bypass / Engage
 - Toggle Modes
 - Tap Tempo
 - DSP-X On/Off
 - DSP-Y On/Off
 - Instant Ramp-X
 - Instant Ramp-Y
 - Reset Sequence
 - Patch Up
 - Patch Down
- < added in 2.1.0 >

 外部スイッチの設定は、Globals 内で行います。（Globals -> Aux TIP
 Globals -> Aux RING
 Globals -> Aux TIP+RING）。

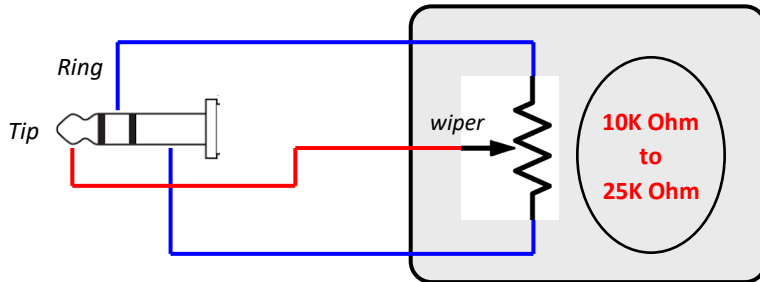


2.2 コントロール・ボルテージ (CV)

シンセ等のコントロール・ボルテージ機器と接続し、パラメーターをコントロールできます。



2.3 エクスプレッション・ペダル



注意：

Synesthesiaは、ワイパーがTipに配線されているエクスプレッション・ペダルでのみ動作します。ワイパーがRingに配線されているペダルは仕様出来ませんのでご注意ください。

■ エクスプレッション・ペダルのヒール&トウのポジション設定（マッピング）

選択したコントロール（エンコーダー）の、エクスプレッション・ペダルまたはランピング機能の設定方法：

- エンコーダーを回して、ヒール（Heel）の設定値を決定する。
- エンコーダーを長押しすると、2秒後にヒール / トウの情報がスクリーンに表示されます。エンコーダーは長押ししたままにします。



- エンコーダーは長押ししたまま回し、トウ（Toe）の設定値を決定します。決定したらエンコーダーを放します。

これで、エクスプレッション・ペダルとランピング機能の最少 / 最大値の設定が完了しました。エクスプレッション・ペダルを上下すると、設定したヒール～トウの範囲で変化します。

ヒール (Heel)



トウ (Toe)



👉 エクスプレッション・ペダルの「トウの設定値」は、ランピング機能の「最大値」と同じです。（チャプター1.10参照）

👉 **変更されたヒールとトウの設定値は、自動的にプリセットに保存されます。**

👉 DSP-X と DSP-YのSPEED、DEPTH、TWEAKの、最大6/パラメーターのマッピング設定が可能です。マッピングされたエンコーダー名は、エクスプレッション・ペダル(またはランピング機能)使用時にスクリーンに表示されます。

■ エクスプレッション / ランピングのマッピング解除

設定する時と同じ手順で、ヒール(Heel)とトウ(Toe)の値を同じにします。



➡ この状態で、エクスプレッションもランピングも動作しません。

👉 Options メニューから、現在のプリセットの全てのマッピングを解除できます。（Options → Unmap EP）

👉 Options メニューから、全てのプリセットの全てのマッピングを解除できます。（Options → Unmap EP [All]）。

Chapter 3 - TAP TEMPO (タップテンポ)

以下の2種類の方法から、タップテンポの設定が行えます：

1. 外部スイッチの使用する。(chapter 2.1参照)
2. フットスイッチB/Xを、タップ入力に設定する。
 ※ このモードに設定すると、フットスイッチB/XでプリセットBを呼び出せなくなります。



フットスイッチB/Xをタップ入力にする設定は、Globalsメニュー内 (Globals → Footswitch B/X) で行います。

3.1 タップ分割 (Division)

テンポの設定をより簡単に行えるよう、豊富なタップ分割オプションを用意しています。Optionsメニュー内 (Options → Tap.Div X または Tap.Div Y) で行います。この設定はプリセット毎に行えます。

タップ分割オプション

Ignore Tap / Clk	4:1	2:1	1:1	1:2	1:3	1:4	3:4
<i>No tempo change</i>	<i>4x slower</i>	<i>2x slower</i>		<i>2x faster</i>	<i>3x faster</i>	<i>4x faster</i>	<i>4/3x faster</i>



タップ入力を始めると、スクリーンに分割の設定が表示されます。

DSP-Yのタップ分割設定

1:1 Tdiv 4:1

DSP-Xの、タップ分割設定

1:1 Tdiv --

何も表示されない例：

- 「Ignore Tap/Clk」に設定されている。
- 使用中のエフェクトにテンポ設定がない。(Octave, Envelope Filter ...等)。

3.2 テンポ LED

テンポLEDは以下の条件、またはXとYのテンポが同期した時にのみ点滅します

1. When you do tap-tempo. タップテンポ入力をした時。
2. SynesthesiaがMIDIクロック信号を受信している時。

また、起動しているアルゴリズムのいずれかがタップテンポに対応しており、**タップ分割が「Ignore Tap/Clk」に設定されていない事**が条件です。

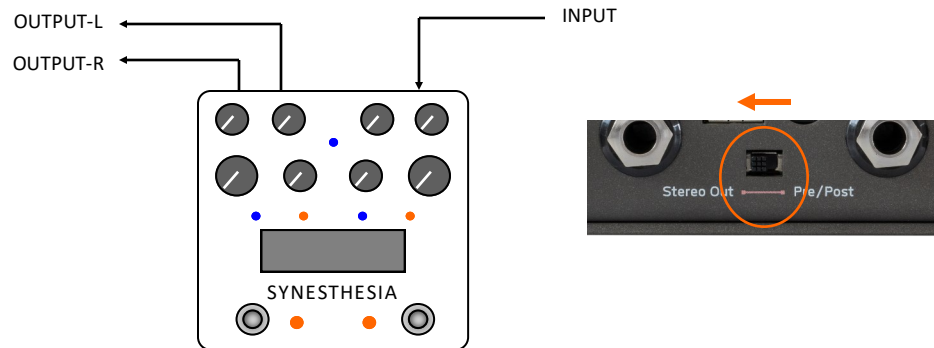
テンポLED



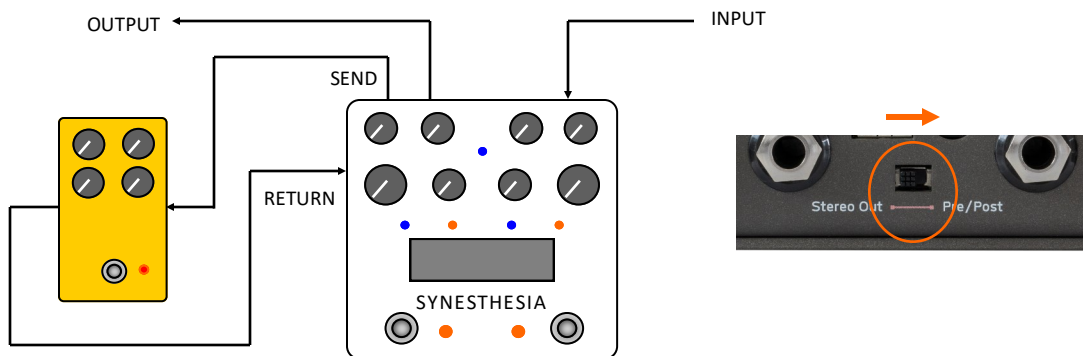
Chapter 4 - SETUPS : Stereo Out (ステレオ出力) と Pre/Post設定

Synesthesiaは、以下の2種類の出力設定で使用できます：

1. **Stereo Out (ステレオ出力) :** 入出力は「モノラル入力 / ステレオ出力」の仕様になります。最も一般的な設定です。




2. **Pre / Post :** 「モノラル入力 / モノラル出力」の仕様になり、Pre / Post の設定が行えます。

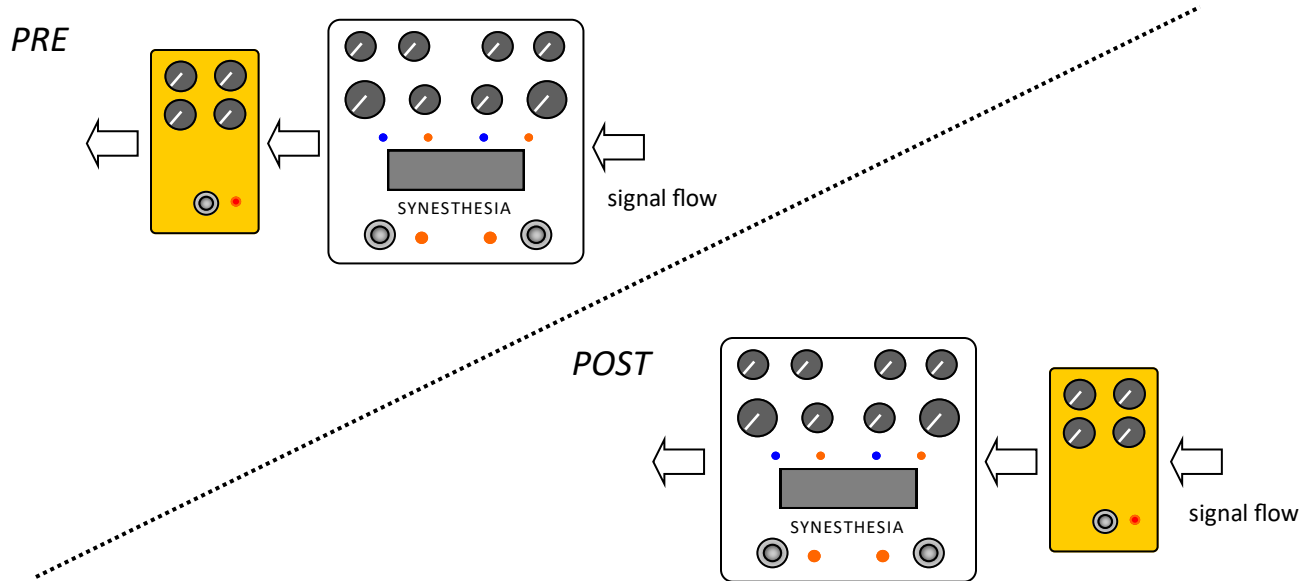


モジュレーション系エフェクトには、ドライブ系エフェクトの手前に接続すると効果的な場合と、後ろに接続した方が効果的な場合があります。Pre/Post の設定を使用して、エフェクトループ (SEND / RETURN) に接続したドライブ系エフェクトとSynesthesiaのエフェクトの順番を切り替えられます。

Pre/Post の設定方法 :

1. エフェクトループ (SEND / RETURN) に、挿入したいエフェクターを接続。
2. 本体背面のスイッチをPre/Postに設定する。
3. Optionsメニュー(Options → Pre/Post)で *Pre* か *Post* を選択する。

 この設定はプリセット毎に行えます。



F.A.Q

Q: エフェクトループに接続されたエフェクターは、Synesthesiaがバイパス時も使用可能ですか？

A: はい、使用可能です。

Q: YとXのエフェクトの間にドライブ系ペダル挿入する事は可能ですか？

A: いいえ、以下のようなルーティングになります。 **[X エフェクト → Y エフェクト] → ドライブ系**

または

ドライブ系 → [X エフェクト → Y エフェクト]

Q: Pre/Postモードで使用、エフェクトループに接続したエフェクターを抜いたら音が出なくなりました。

A: エフェクトループに何も接続しない場合は、本体背面のスイッチを「Stereo Out」に設定する必要があります。

Q: エフェクトループにアンプを挿入する事は可能ですか？

A: プリアンプであれば可能です。

ギター → Synesthesia [INPUT] → Synesthesia [SEND] → アンプ [INPUT] → アンプ [SEND] →
 Synesthesia [RETURN] → Synesthesia [OUT] → アンプ[RETURN]

Chapter 5 - プリセット・タイトルのエディット

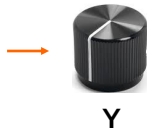
プリセット・タイトルのエディット方法

- 操作したいプリセットをロードする。
- X エンコーダーを長押ししてOptionsメニューに入る。
- 「Preset Title」を選択する。



エディット操作

エンコーダーを回すと文字が変化。
 エンコーダーを押すと、大文字 / 小文字
 など文字カテゴリーが変化。



エンコーダーを回し、選択文字を移動。
 エンコーダーを押すと、編集を終了し保
 存するか確認する画面に移動。



最大12文字

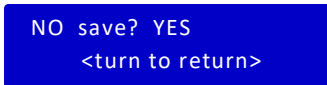
a b c d e f g h I j k l m n o p q r s t u v w x y z 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

↑
 Yエンコーダーを押す

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z % - + / . () & !

↑
 space

保存画面



XまたはYを押すとエディット画面に戻る

Chapter 6 - SYMMLABエディター・ソフトウェア

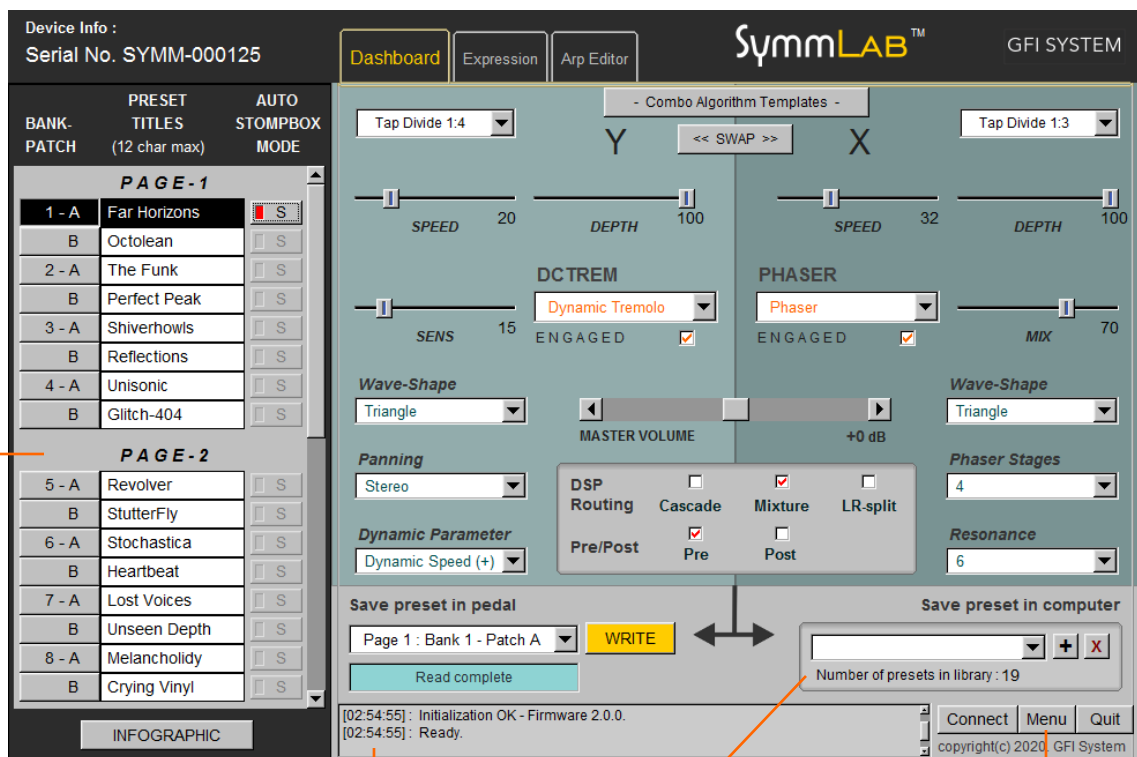
SymmLabは、本機の操作をサポートするソフトウェアです。ペダルで出来る設定の殆どをソフトウェア上で行う事ができます。ファームウェアのアップデート、ライブラリーのアップデート、ファクトリー・リセットにはSymmLabが必要です。

- プリセットのマネージメント（バックアップ、ロード、コンピューターへの保存など）
- 保存されたアルゴリズムを読み出し、コンピューターのスクリーン上に表示。
- アルゴリズムの選択やパラメーターの設定を行い、その効果をリアルタイムでオーディション（試聴）可能。
- ファクトリー・リセット、ライブラリーのアップデート、ファームウェアのアップデート。

SymmLabは、シンプルなデザインで、視覚的に操作しやすいようデザインされています。Windows / Mac 対応。

【ダウンロード】

<https://www.gfisystem.com/downloads.html>.



プリセットのアクセス・パネル：
ペダルに保存されたプリセットを表示 / 名称編集。

ステータス・パネル：
ソフトウェア情報や挙動が表示されます。

オフライン・プリセット：
オフラインのプリセットをコンピューターに保存。
省は次項を参照ください。

メニュー：
画面上に無い設定は、このメニュー上にある場合があります。

■ オフライン・プリセット

コンピューターに保存したプリセットを、「オフライン・プリセット」と呼びます。Synesthesia本体には32プリセットが保存できますが、それ以上のプリセットはコンピューターに保存しておくことが便利です。コンピューターに保存されたプリセットは、シェアも可能です。

オフライン・プリセットを保存すると、「プリセット・ファイル」が自動的にコンピューター内に作られます。このファイルは、他のSynesthesiaユーザーとシェアすることができ、そのユーザーはSymmLab経由でロードできます。

プリセットファイルの保存ディレクトリー：

Windows : C:\%GFI System%\SymmLab\presets
Mac : Documents\%GFI System%\SymmLab\presets

重要！

- プリセット保存フォルダーの移動、削除、名前変更を行わないでください。プリセットのデータベースが破損してしまいます。
- プリセットの削除には、SymmLab内の「preset deletion」機能を使ってください。
- プリセット・ファイルの名前変更方法：
 1. 名前を変更したいプリセットをロード。
 2. 新しいプリセットとして再度保存し、新しい名前を付ける。
 3. 古い名前のプリセットを削除。

■ プリセットのバックアップ：

ペダルに保存されているプリセットをバックアップ：

Menu >> Backup

バックアップを本体にロード：

Menu >> Restore



バックアップのファイルは、オフライン・プリセットと同じ場所に保存されます。

■ SymmLabのアンインストール

Mac : SymmLab appのアイコンをゴミ箱に捨てる。

Windows : Start > All Programs > GFI System > SymmLab > Uninstall SymmLab (アンインストールを選択)
 または
 Start > Control Panel > Programs > Uninstall a Program > SymmLabを選択

Chapter 7 - ファクトリー・リセット、ファームウェアのアップデート、ライブラリーのアップデート

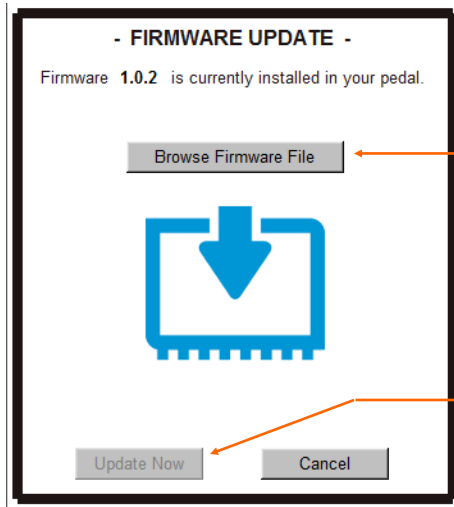
7.1 ファクトリー・リセット

ペダルを工場出荷時の状態にリセットします：

1. Synesthesiaを、SymmLabがインストールされたコンピューターに接続します。
2. SymmLabを開く。
3. *Menu >> Factory Reset.*

7.2 ファームウェアのアップデート

1. 最新のファームウェアをダウンロードします：www.gfisystem.com/downloads.html
 Macユーザーは、ChromeまたはFirefoxブラウザからファイルをダウンロードしてください。
 ※ Safariからは正常にダウンロードできない場合があります。
2. 電源投入時、本体の画面に“GFI SYSTEM” と表示されている間は両フットスイッチを押しっぱなしにします。
 “FIRMWARE UPDATE” と表示されたら、両フットスイッチを放します。
3. Synesthesiaを、SymmLabがインストールされたコンピューターに接続します。SymmLabを開くと、以下の画面がポップアップします。



クリックして、ダウンロードしたファイル (拡張子.fdt)をロードします。

ロード後、クリックしてアップデートを開始します。

4. Synesthesiaを再起動します。(推奨)



ファームウェアとSymmLabは、ペアでアップデート更新されます。
 アップデートの確認を行う際は、両方チェック&ダウンロードしてください。

7.3 ライブラリーアップデート

ファームウェアやソフトウェアのアップデートの際、アルゴリズム・ライブラリーのアップデート情報が含まれている場合があります。

ライブラリーのアップデート方法：

1. SymmLabがインストールされたコンピューターとSynesthesiaを接続する。
2. SymmLabを開く。
3. *Menu >> Library Update.*

※ ライブラリーのアップデートがある場合は、リリース情報に掲載いたします。

スペシフィケーション：

- Input impedance : 1 MOhm.
- Output impedance : 500 Ohm.
- DAC / ADC resolution : 24 bits.
- Current consumption : ~240 mA.
- 重量 : 0.8 Kg (1.6 lbs).
- 寸法 : 12 (L) x 12 (W) x 5.5 (H) cm
- 電源 : 9VDC (センターマイナス) - ※ 別売

製品特徴：

- マルチ・モジュレーション・エンジンを2つ搭載。
- 32 プリセット。
- 最大38個のアルゴリズム。
- 柔軟なDSPルーティング (Cascade、Mixtures、LR-Split)
- 柔軟なモード切替え (Presetモード、Stompboxモード)
- Flexible setup : Stereo Output or Pre/Post.柔軟な接続セットアップ (Stereo Output、Pre/Post)
- 様々な外部コントローラーに対応するA.C.E端子。
- MIDI In、MIDI Thru.
- プリセットや各種アップデートを行うSymmLab®ソフトウェア。
- ステージでも見やすい、明るいLED、LCDディスプレイ。